

## 「80歳宇宙飛行士デビュー」に向けた夢づくり



澤岡学長のユニークな人柄が押し出される10回開催の「宇宙塾」。聞かないと損しますよ(笑)。8月を除く翌2月まで月1回ペースで開催され、連続でも単発でも受講可

人生80年・90年といわれる今。人生締めくくりに夢を抱き、本気で追いかけるなんて、すてきたと思いませんか。

南区にある大同大学の学長で、宇宙開発に長く携わる澤岡昭三(75)の場合、「80歳で宇宙飛行デビュー」というのは驚きです。同大学創立50周年を記念する10回連続公開講座・第1回で飛び出しました。

素材開発が専門の澤岡

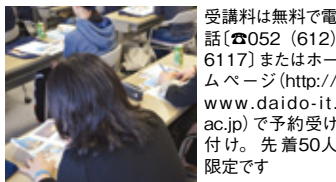
学長。「スペースシャトルに日本人を乗せたい」と、当時の宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構(JAXA、ジャクサ))から声がかかったのが40歳で、今では研究総括を務めるなど、ステップアップの階段を着々と上り続けています。

80歳でエベレスト登頂を成し遂げた、知り合いの三浦雄一郎さんを意識しているという澤岡学長。宇宙飛行最高齢が77



歳であることから、80歳に設定したとか。

成果発表や成功談の披露など、手堅いイメージを吹き飛ばすかのような澤岡学長の講演。失敗や苦労話を堂々と伝えるスタイルが、分かりやすさや楽しさを引き出しているのは間違いない。日本の宇宙開発・ロケット開発の父といわれる東京大学・糸川英夫教授。地球からはるかかなたの小惑星「イトカワ」から微粒子を持ち帰った話題でも知られます。



受講料は無料で電話☎052 (612) 61177またはホームページ(<http://www.daido-it.ac.jp>)で予約受け付け。先着50人限定です

糸川教授が手がけたベンシルロケットから始まった純国産ロケットの歴史。今ではびっくりするほど大きくなりましたが、海岸沿いで行われた当時の発射実験で、ロケットがブーメランのように見学者のすぐ近くに舞い戻ったエピソードなども明らかに。

強化素材の追求はもちろんで、固体燃料の開発秘話など、宇宙開発の当事者の話は聞き応え十分です。